

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	河本悠吾

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
愛知県犬山市霊長類研究所、岐阜県各務ヶ原ホースマン
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
比較認知科学実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 9 月 5 日 ~ 平成 28 年 9 月 7 日 (3 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
霊長類研究所友永雅己教授
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
本実習は認知機能の面からチンパンジーについて理解すること、またその研究の場を見学することでこの分野の研究について理解を深めることを目的に行われた。 以下日程を示す。 9/5 チンパンジー認知学習の見学 9/6 チンパンジー認知学習の見学、ウマ認知学習の見学 9/7 チンパンジー認知学習の見学 初日 この日はチンパンジーが認知学習を行う様子を見学させていただいた。まず驚いたのは、人とチンパンジーの距離が近いことだ。こんなに近いと、我々の動きなどに気を取られるのではないかと思っていたが、そのようなことには慣れているようで、全く気にせず課題に取り組んでいた。また、一つの実験に際し、多くの人で作業しているのも新鮮であった。私は遺伝子を扱った実験が主なので、基本的には一人で作業するからだ。チンパンジーの学習の課題には、種、傾き、数などを比較するものがあった。どの実験も、チンパンジーが行う作業はパネルを押すだけというシンプルなものであったが、見せる絵や図を変えるだけで、その実験の意味は大きく異なるということが理解できた。各問いに対して数ミリ角のリングという報酬で課題をこなし続けることに、彼らの賢さとのギャップのようなものを感じて面白かった。 二日目 午前中は、昨日の実験に加えて、音に対するチンパンジーの行動を調べる実験を見学させていただいた。ここで興味深かったのはオスとメスで音に対する反応が異なっていたことだ。音を聞かせる実験で、メスは音に対して特に反応がなかったのに対し、オスは音に合わせて体を揺らし、最終的には吠えて壁を蹴ったり叩いたりする行動が見られた。自然界でもオスは特に外部からの音を気にしているのだろうかと感じた。 午後からは、じゃんけんについての実験が行われた。タッチパネルに示されたじゃんけんの二つの手のうち、勝つ方を選ぶというものだ。示され方によって、同じ手でも正解にも不正解にもなり得る複雑なものがあるが、かなり高い確率で彼らは正解していた。訓練次第でこのようなことも理解できるのかと、チンパンジーの能力の高さを改めて実感した。 その後、下半身不随となった個体の飼育施設を見学した。いまだに完全には回復しておらず、骨や筋肉が固まっているのか動き方はぎこちなかった。この個体のリハビリも兼ねて、学習用のパネルは、彼が少しでも運動するようにと彼から離れた場所に設置されていた。 二日目の最後は、ウマの認知学習の見学を行った。チンパンジーの場合と同様、タッチパネルを用いて学習を行うのだが、彼らの場合は鼻先でパネル操作ができるように工夫されていた。二つの四角の中の丸が多い方を選択するものであったが、かなりの割合で正解していた。彼らが数の違いを認識できることは意外であった。チンパンジーやヒト以外でも、ものの違いというのを認識できるのだと理解できた。 今回の実習で、動物の認知機能を理解することの難しさや重要性を感じることができたように思う。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



実験中のチンパンジー



実験中のウマ

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援により行われました。また、本実習に際し、ご指導いただきました友永雅己先生に感謝申し上げます。